

令和8年度 園評価に関する報告書

1 園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールを守れる子に育てる

1. 基本的な生活習慣の自立に向けて“やりたい”という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
2. 異年齢児グループを作り、家庭的な雰囲気の中で子ども同士が自由に遊ぶことにより、子どもが子どもの中で育ち合う環境を作る。
3. 豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
4. 生活や遊びの中で、自分の意思や考えが表現出来るようにし、相手の人権を尊重し、思いやりのある豊かな心を育てる。
5. 子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力・認識力を養い、目標に向かって最後までやりぬく粘り強さを身につけ“生きる力”“人を思う優しさ”を育てる。

2 達成に向けた具体的な取り組みの計画

1. 一人ひとりを大切にされた保育

子どもの健康状態・発育発達・家庭状況を丁寧に把握し、信頼関係の中で情緒の安定を図る。
子どもの「思い」を受け止め、満たされる経験を通して安心して過ごせる環境をつくる。

2. 異年齢交流による育ち合い

年上の子は年下の子の手本となり、年下の子は憧れをもつことで、自然と頼ったり頼られたりする関係が生まれます。その中で、優しさ・思いやり・自尊心が育ちます。

3. 言語の力を育む環境づくり

絵本を「見る・聞く・読む」経験を豊かにし、ことばや文字への興味を育てます。
理解力・表現力を伸ばし、人としての基礎となる言語能力を大切に育てます。

4. 人との関わりを通じた社会性の育成

友だち・先生・地域の方々との関わりや触れ合いを通して、優しさ・思いやり・約束やルールを守る協調性を育み、社会の一員としての基礎を身につけます。

3 評価と課題

1. 子ども一人ひとりの姿を共有し、職員間で共通理解をもつことで、より適切な関わりができるよう努めた。また、子どもの声に耳を傾け、気持ちに寄り添いながら関わることで、情緒の安定や主体性、自己肯定感の育ちにつながるよう配慮した。今後も丁寧な関わりを大切にし、見通しをもった保育・教育を進めていく。
2. 昨年度に続き、行事を通して異年齢の友だちと関わる時間を大切にしてきた。運動会では、年上の姿に憧れたり、年下を思いやったりする気持ちが自然と育つ様子が見られた。今年度も戸外遊びや季節の行事を通して、異年齢でのつながりを広げていく。
3. 月刊絵本や保育室の絵本を楽しむ中で、言葉のリズムを感じたり、物語を想像したりする喜びを味わい、自然と文字への興味も広がっていった。今年度も異年齢での読み聞かせを続け、子どもたちの言葉や表現の世界がさらに広がるよう働きかけていく。
4. 地域行事や法人内施設の高齢者との交流を通して、他者への配慮や協調的な態度、基本的なマナーを意識して行動する姿が見られた。今年度も保育教諭や仲間との共同的な活動を通じて、社会性や協調性が育つようにしていく。
5. 子どもの好きなことや興味を大切にしながら、友だちや保育教諭と一緒にいろいろな活動を楽しむ中で、挑戦する気持ちや自分で考える力が育ってきた。今年度も子どものありのままを受け止め、安心して過ごせる環境の中で“できた”という喜びや“自分っていいな”と思える気持ちを育てていく。